

## 主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業、水産）

1 日時・場所	令和7年9月24日（水）5、6限	施設園芸科温室
2 対象・人数	施設園芸科 3年B組 13名	
3 科目・単元名	総合実習	生産実習と学校活動の魅力発信実習
4 本時の目標	<p>Instagramを活用した学校の情報発信を題材に、生徒が主体的・対話的で深い学びを通してアントレプレナーシップを理解する。</p> <p>投稿案の企画・作成・振り返りまでの一連の活動を通して、情報を適切に扱い発信するための情報マネジメントの視点や、見る側を意識したマーケティングの基礎的な知識を身に付ける。</p>	
5 生徒の実態や課題	<p>事前アンケートの結果、生徒の多くはSNSを娯楽として利用しているが、学習内容や生産物を意図して発信した経験はなく、マーケティングやターゲット設定の意識も薄い。また、SNSマナーや著作権、個人情報保護の理解も不十分である。</p>	
6 アントレプレナーシップ醸成の場面	<p>収穫や加工、販売準備、学校行事などの場面で公式Instagramアカウントを使い、農産物の魅力や生徒の取組を発信する。生徒が主体となって投稿の企画、撮影、編集、公開を行い、ユーザーの反応を分析しながら改善することで、経営者視点やPDCAサイクルの感覚を養う。</p>	
7 ICT活用	<p>スマートフォンやタブレット端末、カメラといったICT機器を使い、Instagramの投稿機能・リール機能・インサイト機能を活用する。また、写真・動画の編集アプリやハッシュタグ分析ツールを使用して質の高い投稿を作成し、反応を分析する。</p>	
8 準備・打ち合わせ	<p>SNS利用規約の確認、投稿の構成や撮影計画、ハッシュタグの検討を事前に行う。撮影機材（スマートフォン、三脚、ライト）、編集アプリ、商品の撮影用サンプルを準備する。実習教員との打ち合わせで、撮影許可や投稿ガイドライン、危機管理対応について共有する。</p>	
9 仮説	<p>学校の情報発信の場面において、市場調査や危機管理など、アントレプレナーシップを育む場面を取り入れることによって、生徒が主体的に情報を企画・発信する力とマーケティング感覚を身に付け、社会や地域とのつながりを意識して行動する態度が育成されるだろう。</p>	

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C(努力を要する)
情報発信の計画と実施。	思考・判断・表現	作物の生育に合わせて、情報を発信するスケジュールを設定し、計画通りに実施できている。	情報発信の計画は立てられているが、実施面では改善が必要で、教員の助言を受けながら実施している。	情報発信の計画が不十分で、投稿の質や更新が安定せず、教員に依存している。
振り返りと改善への姿勢。	主体的に学習に取り組む態度	収集した情報を分析し、自ら改善策を考え実行している。	収集した情報の分析や改善を行っているが、人任せにするなどまだ、消極的な面がある。	収集した情報の分析や改善に取り組んでおらず、反応に無関心である。
11 主体的・対話的で深い学びの場面	生徒はグループごとに投稿するコンテンツを企画し、ターゲットや伝えたいメッセージを議論する。撮影・編集の役割を分担し、互いに意見を出し合いながら写真や動画を制作する。投稿後にはインサイト機能などを活用し、フィードバックを基に次の投稿案を改善する。			
12 生徒の変容	<p>SNSでの情報発信を通じ、従来受け身だった生徒が積極的にアイデアを出すようになり、文章力や写真の構図など表現力が向上した。投稿の反応を見て改善策を考えるなど、PDCAの視点をもてるようになった。チームメンバーとの対話も活発になり、協働して課題解決に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>「実習服の着方や安全確認を守る」  「撮影場所を事前に確認し、公共の場で迷惑にならないようにする」「見る人が安心できる表情や言葉遣いを意識する」などの発言が見られ、生徒は発信者としての責任を自覚し、情報の取扱いに対する意識を高めることができた。</p>			
13 検証と考察	実践後の生徒アンケートから「自分たちの活動を発信する楽しさを感じた」「マーケティングの視点を学べた」との声が多く、生徒が主体的に情報を企画・発信する力とマーケティング感覚を身に付け、社会や地域とのつながりを意識して行動する態度が身に付いたと考えられる。			
14 振り返りと改善	ハッシュタグや投稿時間帯など分析をより深め、目標フォロワーを意識したコンテンツ企画を行う必要がある。今後は校内活動に限らず、地域の農家等とのコラボ投稿などを検討し、より実践的なマーケティング体験を实践したい。また、SNS利用に関するルールや情報モラルについては継続的に指導し、生徒が発信者として適切に判断・行動できる情報マネジメント力の育成を図る必要がある。			



動画撮影の様子